令和6年度

山城小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①自分の考えを豊かに表現できる力を育成する。
②自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
道徳教育推進教師 大久保智美	校長　磯村淳　　教頭　喜多勝美 低学年推進員　岩嵜　毅 中学年推進員　福良知紀 高学年推進員　川人美保

校長

磯村　淳

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

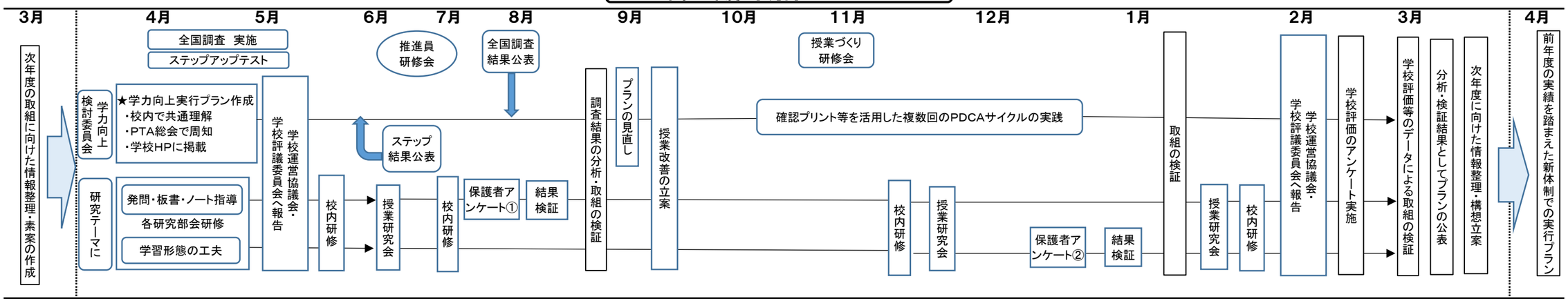
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○指示された課題に誠実に取り組み，やりきることができる。できることを増やそうと努力できる。 ●学習内容の定着に時間がかかり，知識技能の定着が思うように進まない児童がいる。学力差があり，二分化している。	読み書き計算に習熟した子ども	・学期末ごとに漢字計算検定を実施し，基礎学力の定着を図る。 ・家庭学習について，課題の量や出し方を工夫する。 ・定期的に良質な文・文章を視写する。良質な文章に触れながら，文字を書く正確性や速度を高めていく。	・文章で漢字や言葉が正しく使えているか確認をする。 ・学力習熟プリントを活用する。	・学期末ごとの漢字計算検定実施により基礎学力の定着が図れた。 ・文章で漢字や言葉が正しく使えているか教師が確認をすることにより、間違ったままにしない態度が身についてきている。家庭学習については量や出し方の工夫ができた。適切な量というのをつかむのが困難であった。	学期末ごとの漢字計算検定を続けていくが、児童の達成状況を職員間で共有できていないので、数値として共有できるように工夫をする必要がある。家庭学習についてはきめ細かく教師が確認をすることにより、より高い学力に繋がると思われるので、引き続き家庭学習の量と出し方について教員間で共通理解を深めていく。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○経験や学習を生かして，自分の伝えたいことを表現しようと努力している。 ●文章表現力や書く力が十分育っていなかったり，理由を言えなかったりする。語彙力が不足していて，自分の思いをうまく表現できない。	根拠を明らかにして，自分の考えを表現し，相手に分かりやすく伝えることができる子ども	・授業において，ノートや決められた用紙，ホワイトボードやICTなどを効果的に活用し，根拠を明らかにして自分の考えを書く活動を１日１回以上行う。 ・考え，表現，学習の手引きを活用し指導・支援する。 ・日記指導を充実させ，書く力を向上させる。	・教師の授業力向上を図る。 ・算数の授業では【気づき→考え方→自力解決→練り上げ】の形態を重視する。	・ノート視写だけでなくホワイトボードやタブレットなどのざまざまなICTを活用することで、書いたりまとめたりする作業の回数が増え自分の考えを表現することへの抵抗感がなくなってきている。同時に根拠を明らかにして考えを表現する回数も増えた。 ・表現のお手本や手引きは有効であった。 ・日記を書く活動は、書く力の向上に繋がっている。	・「日記」「漢字計算アプリ」を取り入れるなど児童の実態に応じた取り組みを続けるとともに、考え・表現・学習の手引きやお手本を活用し児童の表現の基礎を培う。 ・学習内容に合った教育ツールを選択し、授業時に有効に活用させる。 ・思いを伝えやすい環境や思いを受け止める心を育む。 ・ファシリテーション力の向上を図る。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習課題に興味を持って取り組む児童が多い。分かることを進んで発表しようとする意欲がある。 ●計画や見通しを立てて行動する態度が定着しておらず，自分自身の課題が見つけられない。思考を要する課題に対して実践・実行せずに諦めてしまいやすい。	自主学習を調整し，意欲的に取り組む子ども	・学力アップチャレンジ週間（年6回）を設け，家庭との連携を図る。 ・自主学習では，めあてと振り返りを意識させて取り組ませる。 ・見通しや計画が立てやすいように，モデルや目標になるものを提示する。教師のコメントは児童の励みになるようにする。	・児童の意欲に繋がるコメントを特に意識する。	・学力アップチャレンジ週間（年6回）を設けたことにより家庭との連携が図れた。課題を山積する子もいたが、続けていく価値を見出させたい。 ・児童の励みや次への意欲に繋がるコメントを意識し、教師間で共通理解を図りながら取り組むことができた。	・学力アップチャレンジ週間を来年度も続ける。 ・子どもたちが柔軟な発想で家庭で何をするか考えられるように工夫していく。 ・見通しや計画が立てやすいようにモデルになるものを提示する。

令和6年度　学力向上ロードマップ